

No. 7月-56

## 復 命 書

18年7月26日

静政会 代表

伊東 稔浩 様

議員名 佐藤 成子

遠藤 広樹

下記のとおり、政務調査費による視察を実施したので、ご報告します。

### 記

#### 1 日 程

18年 7月 24日(月) ～ 25日(火)

(佐藤議員は7/25のみ)

#### 2 視 察 先(都市名、視察施設等を具体的に)

東京都千代田区

教育ソリューションフェア2006に参加

#### 3 視 察 内 容(調査事項、調査結果を具体的に)

「東京都品川区の教育改革のいま」若月 秀夫氏(品川区教育長)

「学力トップの国フィンランドから、教育改革のヒントを」

ヘイッキ・マイパー氏(フィンランドセンター所長)

等

#### 4 そ の 他(所感、感想等)

別紙参照

## 教育ソリューションフェア2006

### 『学力トップの国フィンランドから教育改革のヒント』

パネリスト：フィンランドセンター所長・ヘイッキ・マイパー

東京都三鷹市教育長・貝ノ瀬 滋

コーディネーター：千葉大学教授・天笠 茂

「教育こそが国全体の基本」という政治的コンセプトがある。1990年代世界的に経済状況がきびしい時代だった。

1995年頃より、「教育が何より大事」と首相が提案。教育省を提案。目標を定めて、教育国家委員会でガイドラインを提示。実際の現場の評価を行うなど、全体的な改革が行われた。教育は無料。みんな等しい教育を受けるチャンスがある。

子どもたちに、何処の学校に進むか・安全教育を受ける・就学前教育・この3点の権利と義務が与えられている。入学試験はない。世界で高水準の教育レベルを出せたのは、やはり国の大きな目標があったからだと言える。教育を政策のどの位置に置くかがとても大事なことだと実感した。

世界で高水準を保ってきた日本は、どうする必要があるのか考えさせられた。500万人の国と1億の日本では、国情が

違うと言うけれど、それだけとはいえない。勉強ではなく学ぶということを伝える教育。当日配布された「フィンランド・メソッド」を少し詳しく読んでみたい。10月には、実際にフィンランドの教育現場の視察に行く予定だ。特別支援教育の実態や福祉施設などの現状も視察してくるつもりだ。

三鷹市の地域立学校の建設の仕方、小中学校兼務発令など教育特区としてやるのではなく現在できることを最大限やるというのはすごい！小中学校一貫教育の実状は興味を持てた。学校はコミュニティーの原点、市民参画の学校づくりなど、まなぶべきことが多々あった。

午後の『食育セミナー』～早寝、早起き、朝ごはん～

女子栄養大学三木とみ子教授は、今、子どもたちの生活習慣が乱れている。教育の基盤とも言えることが危うくなっていると強調。早寝、早起き、朝ごはんは健康教育であり、わかる授業、できる喜び、学ぶ楽しさに繋がると力説。ついこの間まで、ごくごく当たり前のことであった、家庭でのいとなみがくずれているという。どうする必要があるのか。今親になっている世代が『食育』を受けていないのが

大きな問題だと言う。三木教授のかつての教え子たちの調査では、その頃教えられたことを思い出しながら、子育てに活かしていると言う結果が出ていると言う。何事も、教育が大事だと再認識した。また、料理研究家坂本廣子氏の経験しながらの食育の提案もおもしろかった。それは、体感食育（hands-on）でのひらに豆腐を載せて包丁で切ると言う体験。子ども自身が自分で様々なことを見つけていく。知る喜び、できる喜びをあたえる。しつけはおしつけではない。腑に落ちて初めて身につくもの。子育ての最終目的は、知育、徳育、体育、食育であり、自立させられこと。柔軟な子ども時代に、その5感全てを使った教育は、記憶に残るものだ。机上だけではない教育ということだ。クッキングスクールでの体験をしてみたいと思った。教育現場のみではこれらの実現はむずかしい。民間とのコラボが いい のではないか。